ご挨拶

株式会社バルカー
代表取締役会長CEO
瀧澤　利一

令和6年の新春のご挨拶を申し上げます。
読者の皆さまには日頃から本誌をご愛読いただき、厚く御礼申し上げます。

はじめに、元日に発生した能登半島地震により犠牲となられた方々に謹んでおくやみ申し上げますとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年一年を振り返れば、世界全体が不確実性と変化の中にさらされ経済活動においても様々な課題に立ち向かうことが要求された一年でした。しかしながら、同時にポストコロナとしての経済回復の基調の上に、新たなイノベーションやデジタル技術の進展が起こり、将来を見据えて持続可能な成長への道程も示された年であったともとらえています。例えば、生成AIが本格的に社会導入されたことは、あらゆる業種の企業活動に対して今までの事業活動を一変させる可能性をもたらしており、このようなイノベーションが引き起こす変化の代表的な事例と考えられます。

当社を取り巻く環境も、内需の回復や輸出の拡大といった好材料が見られつつも、半導体業界の一時的なスローダウン、地政学上の問題や環境規制に起因される原材料の供給問題、更にはエネルギー価格の上昇といった影響も受け非常に対応すべき課題の多くある年でした。また、このような変化に満ちた状況は、今後も継続していくことが予見され、多くの課題に対して迅速に対応出来る組織力を創り上げることが、非常に重要な経営課題であると改めて確認されました。すなわち、組織としてのアジリティの高さの重要性が強調された一年であったと感じています。

こうした時代の中では、物事の本質を理解してその価値の極大化に向け、追求していくことが求められます。本質を理解することは、自らの存在や使命、価値観を明確に把握し単なる経済的な成功だけでなく、私たち全てが生活をする社会への積極的な貢献を意味します。本質を理解した発想や行動は、真に必要とされる持続可能なイノベーションを生み出すことへつながり、その可能性も増大すると考えています。

研究・製品開発の分野でも企業の本質を理解し追求し、それに向けて持続可能な進化を促進することが需要家の皆さまの期待に応え、延いては社会全体に対して真に必要な価値をお届けできるものと思っています。そうした成果を本年も本誌を通じて皆さまにご報告をさせていただきます。是非、読者の皆さまからのご意見を頂戴しご指導賜れれば幸いです。

最後になりますが、今後とも一層のお引き立てをお願い申し上げますとともに、読者の皆さまの益々の発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。